

特定非営利活動法人

チャイルド・フアンド

ジャパン

2018年度

年次報告書

ChildFund
Japan

Annual Report

2018



Unit 1	LESSON 1	1
Unit 1	LESSON 2	10
Unit 1	LESSON 3	18
Unit 1	LESSON 4	25
Unit 1	LESSON 5	34
Unit 1	LESSON 6	41
Unit 1	LESSON 7	49
Unit 1	LESSON 8	57
Unit 1	LESSON 9	64
Unit 1	LESSON 10	72
Unit 1	LESSON 11	80
Unit 1	LESSON 12	88
Unit 1	LESSON 13	96
Unit 1	LESSON 14	104
Unit 1	LESSON 15	112
Unit 1	LESSON 16	120
Unit 1	LESSON 17	128
Unit 1	LESSON 18	136
Unit 1	LESSON 19	144
Unit 1	LESSON 20	152
Unit 1	LESSON 21	160
Unit 1	LESSON 22	168
Unit 1	LESSON 23	176
Unit 1	LESSON 24	184
Unit 1	LESSON 25	192
Unit 1	LESSON 26	200
Unit 1	LESSON 27	208
Unit 1	LESSON 28	216
Unit 1	LESSON 29	224
Unit 1	LESSON 30	232
Unit 1	LESSON 31	240
Unit 1	LESSON 32	248
Unit 1	LESSON 33	256
Unit 1	LESSON 34	264
Unit 1	LESSON 35	272
Unit 1	LESSON 36	280
Unit 1	LESSON 37	288
Unit 1	LESSON 38	296
Unit 1	LESSON 39	304
Unit 1	LESSON 40	312
Unit 1	LESSON 41	320
Unit 1	LESSON 42	328
Unit 1	LESSON 43	336
Unit 1	LESSON 44	344
Unit 1	LESSON 45	352
Unit 1	LESSON 46	360
Unit 1	LESSON 47	368
Unit 1	LESSON 48	376
Unit 1	LESSON 49	384
Unit 1	LESSON 50	392
Unit 1	LESSON 51	400
Unit 1	LESSON 52	408
Unit 1	LESSON 53	416
Unit 1	LESSON 54	424
Unit 1	LESSON 55	432
Unit 1	LESSON 56	440
Unit 1	LESSON 57	448
Unit 1	LESSON 58	456
Unit 1	LESSON 59	464
Unit 1	LESSON 60	472
Unit 1	LESSON 61	480
Unit 1	LESSON 62	488
Unit 1	LESSON 63	496
Unit 1	LESSON 64	504
Unit 1	LESSON 65	512
Unit 1	LESSON 66	520
Unit 1	LESSON 67	528
Unit 1	LESSON 68	536
Unit 1	LESSON 69	544
Unit 1	LESSON 70	552
Unit 1	LESSON 71	560
Unit 1	LESSON 72	568
Unit 1	LESSON 73	576
Unit 1	LESSON 74	584
Unit 1	LESSON 75	592
Unit 1	LESSON 76	600
Unit 1	LESSON 77	608
Unit 1	LESSON 78	616
Unit 1	LESSON 79	624
Unit 1	LESSON 80	632
Unit 1	LESSON 81	640
Unit 1	LESSON 82	648
Unit 1	LESSON 83	656
Unit 1	LESSON 84	664
Unit 1	LESSON 85	672
Unit 1	LESSON 86	680
Unit 1	LESSON 87	688
Unit 1	LESSON 88	696
Unit 1	LESSON 89	704
Unit 1	LESSON 90	712
Unit 1	LESSON 91	720
Unit 1	LESSON 92	728
Unit 1	LESSON 93	736
Unit 1	LESSON 94	744
Unit 1	LESSON 95	752
Unit 1	LESSON 96	760
Unit 1	LESSON 97	768
Unit 1	LESSON 98	776
Unit 1	LESSON 99	784
Unit 1	LESSON 100	792

理事長挨拶

日頃からチャイルド・ファンド・ジャパンを支えてくださる方々にお礼を申し上げます。今年も我々の活動と成果をこのように報告できますことに心より感謝申し上げます。私を含めた役員や正会員にとって、2018年度は「子どものセーフガーディング」の知識を深める1年でした。日本でも子どもへの暴力と悲惨な結果が多く報道され、心を痛めます。私は小さな人たちに接する幼稚園長の仕事をしていますから、チャイルド・ファンド・ジャパンがこのセーフガーディングを積極的に取り組むことになり、子どもを守る責任を改めて考えさせられました。親、学校、地域の人々、自治体などが、子どもを守る義務を果たす社会にしなければと強く感じます。そのような世界を目指す我々に、これからも多くの方々から温かい協力が得られることを心より祈っています。



特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン 理事長
ながやま のぶお
長山 信夫

役員

2019年3月31日現在

顧問	深町 正信	
理事長	長山 信夫	日本基督教団安藤記念教会牧師、同付属幼稚園園長
理事	福嶋 美佐子	特定非営利活動法人 チャイルド・ファンド・ジャパン 支援者代表
理事	岡田 昭人	東京外国語大学教授
理事	小澤 淳一	青山学院初等部宗教主任
理事	鷺見 八重子	和洋女子大学名誉教授、大学女性協会会長
理事	高橋 潤	日本基督教団銀座教会牧師
理事	原島 博	ルーテル学院大学教授
監事	向山 功	株式会社向山商会代表取締役社長
監事	脇屋 元	立花証券株式会社取締役

チャイルド・ファンド・ジャパン43年の歩み

支援される国から支援する国へと行われた「愛のバトンタッチ」

1945年	第二次世界大戦終了
1948年	キリスト教児童基金 (CCF) が日本の戦災孤児へ支援をはじめ
1952年	CCFの日本事務所として社会福祉法人基督教児童福祉会が設立
1974年	日本が経済成長を遂げてCCFの支援が終了
1975年	社会福祉法人基督教児童福祉会 (CCWA) は国際精神里親運動部を創設しフィリピンでの支援を開始
1991年	東京弁護士会人権賞受賞
1995年	ネパールで保健事業の支援を開始
2001年	全国社会福祉協議会会長特別表彰受賞
2005年	CCWA国際精神里親運動部は法人変更により特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパンとして活動を開始
2006年	外務大臣表彰受賞
2006年	スリランカでスポンサーシップ・プログラムを開始
2009年	国税庁長官より「認定NPO法人」に認定される
2010年	ネパールでスポンサーシップ・プログラムを開始
2011年	東日本大震災緊急・復興支援事業を開始(2013年3月終了)
2015年	東京都より「認定NPO法人」に認定される

目次

02	理事長挨拶／役員／歴史
03	事業概要
04	チャイルド・ファンド・ジャパンの1年
06	地域開発支援事業
08	事業報告 フィリピン
12	事業報告 ネパール
16	事業報告 スリランカ
18	広報・啓発・提言事業
20	様々なご支援・ご参加方法
21	チャイルド・ファンド・アライアンス
22	数字で見るチャイルド・ファンド・ジャパンの1年
23	会計報告

チャイルド・ファンド・ ジャパン 事業概要

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。活動を通じ人と人が出会い、お互いに理解を深め、つながることを大切にしています。



1 地域開発支援事業

スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、貧しさの中で暮らす子どもたちが健やかに成長することができるように支援するプログラムです。支援を受ける子どもたちには、教育や保健・栄養など、一人ひとりの必要に応じたプログラムが提供されます。また、家族と地域の自立を目指して、家族の生活改善や住民主体の組織づくりなど、中・長期的視野にたった支援を行います。2018年度は、フィリピンで11カ所、ネパールで1カ所、スリランカで2カ所の協力センターと協働して支援を行いました。

支援プロジェクト

貧困に起因する様々な問題の中で、特定の開発課題に応える支援事

業です。2018年度はフィリピンで3件、ネパールで4件のプロジェクトを実施しました。

2 緊急・復興支援事業

台風や地震などの自然災害の被災者や、地域紛争による避難民を支援します。2018年度は、フィリピンでの台風への緊急・復興支援事業を1件実施しました。

3 広報・啓発・提言事業

国内でチャイルド・ファンド・ジャパンの活動を広め、理解を深めていただくための事業です。子どもに対する暴力撤廃に向けた提言活動を行ったほか、団体の活動において子どもたちがあらゆる危害から守られるよう、組織体制の強化を進めました。

2018年度の活動の概要

2018年度は3カ年の中期計画（2018年4月～2021年3月）の1年次となりました。この中期計画では、当団体が①視座の高い、②支える、③俊敏な、④責任をもつ、組織となることを目指していきます。そのための戦略と本年度の重点は以下となりました。

1. 「子ども」を中心にすえた活動の徹底

「子どものセーフガーディング」の整備を開始。また、アライアンスとの連携強化を具体的に実施。

2. 地域開発支援事業モデルの再構築

支援事業面でのスポンサーシップ・プ

ログラムの見直しを行い、支援事業の新しい枠組みを構築。また、ネパールでは、外務省からの助成金を初めて得て、新たな事業を開始。

3. 変革をもたらすコミュニケーションの強化

団体のブランディング構築のため、プロボノによる無償コンサルティングを受け、支援者についての見識を深めた。継続的な支援者に対してのアンケートの実施、初めての試みとしてテレマーケティングを行った。

4. 組織力の強化

財務管理の強化のために、事業別収支を開始し、公益法人会計の導入を準備した。



外務省の助成で行っている事業では、校舎の建設などを支援しています

チャイルド・ファンド・ ジャパンの1年

1年を振り返って

2018年度、ネパールで初めての訪問の旅を実施したほか、防災に焦点をあてた支援プロジェクトを1件開始しました。東京事務所では、理事長を含む役員交代があり、また、「子どものセーフガーディング」への取り組みを進めました。ラグビーワールドカップに向けたパートナーシップも開始され、新たな動きの多い1年となりました。



熊本地震感謝状拝受

熊本市役所で「平成28年熊本地震感謝状贈呈式」が行われ、対象団体の一つとして感謝状をいただきました。チャイルド・ファンド・ジャパンは、地震発生直後から2017年8月まで、こころのケアに重点をおいた緊急支援を実施しました。

4月 **スリランカ 豪雨発生**
豪雨により、各地で洪水や地滑りが発生しました。一部のチャイルドやその家族が避難したり、床上浸水の被害にありましたが、人的な被害はありませんでした。



理事長の交代

2014年より4年間理事長を務めた高田和彦が退任し、後任に長山信夫が就任しました。

7月 **チャイルド・ファンド
パス・イット・バック
メディアでの紹介**
ラグビーで途上国の子どもたちを支援する「チャイルド・ファンド パス・イット・バック」の取り組みが、NHK総合やBS1の番組で紹介されました。



ゴスペルチャリティーコンサート

NGOゴスペル広場が主催するゴスペルスクエアコンサートにブースを出展しました。ネパールで行う活動へのご支援を呼びかけ、多くのご寄付をいただきました。

2018▶

4月

5月

6月

7月

8月

9月



元チャイルドの事務所訪問

小学校から大学まで、スポンサーシップ・プログラムの支援を受けていたフィリピンの男性が、家族とともに東京事務所を訪問しました。

5月 フィリピン 2つのセンターの自立

それぞれ2003年、2004年から支援してきた協力センター49と50が、支援を離れ自立しました。



ネパール 自立を祝う式典

2018年3月末に支援を終了したラメチャップ郡で、自立を祝う式典が開催されました。参加者たちは、今後も学校や地域、地方政府などが一つとなり、子どもたちの教育と地域の発展を支えていくとの決意を新たにしました。



ワールドラグビーとの パートナーシップ締結

日本で開催されるラグビーワールドカップ2019に向け、大会を主催するワールドラグビーとチャイルド・ファンドがパートナーシップを結びました。

9月 古本による寄付の 受付開始

古本を活用してNPO・NGOをサポートする「チャリボン」と協働し、古本での寄付の受付を開始しました。気軽にご協力いただけるご支援の方法が増えました。

9月 ラブアンドピース
プロジェクト2018開始

株式会社フェリシモのファッションブランド「haco!」が実施している、寄付つき商品の販売を通して子どもたちを支援するラブアンドピースプロジェクトの支援先として、2017年に引き続き、チャイルド・ファンド・ジャパンが選ばれました。



ネパール 訪問の旅

ネパールで初めてとなる訪問の旅を実施しました。支援地域を訪問し、チャイルドたちと交流を深めました。



としまふれあいバザール

池袋西口公園で開催された「としまふれあいバザール」に出展し、ブースとステージで団体紹介を行いました。



11月 東京YWCAバザー

東京YWCA会館で行われた、「留学生の母親」運動を支える会の皆さまが主催するバザーに出展し、ブースで活動紹介を行いました。

11月 「子どものセーフガーディング方針」と「行動規範」策定

2019年11月の「子どもの権利条約」採択30周年前に、「子どものセーフガーディング方針」と「子どものセーフガーディングの行動規範」を策定しました。団体のすべての活動において、子どもたちの権利と尊厳を守り、子どもたちがあらゆる危害から守られるよう取り組んでいきます。



11月 ネパール「災害に強い学校づくりプロジェクト」開始

校舎の建設と学校の防災体制づくりを支援するプロジェクトへの、外務省NGO連携無償資金協力による助成が決定しました。在ネパール日本国大使館で署名式が行われ、松浦次長が出席しました。



12月 杉並区でのキャンペーン開始

書き損じハガキなどを活用して、ネパールの子どもの学ぶ環境を整える「杉並区民の手でネパールに学校を!」キャンペーン第9弾を実施しました。皆さまからご協力いただいた結果、501,609円分のご寄付となりました。

2月 ボランティア感謝交流会開催

団体の活動にご協力くださっているボランティアの皆さまに感謝の気持ちをお伝えるため、東京事務所で開催しました。大勢の方に支えていただいていることを実感し、スタッフにとっても励みになる会となりました。

3月 大船渡市からのお礼状拝受

東日本大震災の際に支援活動を行った大船渡市の、都市整備部住宅公園課と応急仮設住宅支援協議会の職員の方が東京事務所を訪問くださいました。仮設団地での支援に対する、大船渡市長からのお礼状をいただきました。

10月

11月

12月

2019 ▶

1月

2月

3月



11月 ラグビー日本代表戦でプロジェクトの紹介

味の素スタジアムで行われたラグビー日本代表対ニュージーランド代表戦で、ブースを出展しチャイルド・ファンド パス・イット・バックを紹介しました。



12月 フィリピン 台風26号 緊急支援

10月末に発生した台風26号がフィリピン北部に上陸し、広い範囲で被害が生じました。スポンサーシップ・プログラムの支援を受ける家族を対象に、家屋の修復や食料の配布などの支援を行いました。

3月 タグラグビー×ライフスキルイベント開催

タグラグビーを通じてライフスキルを身につけることを目指したイベントを開催し、小学生16名(女子7名、男子9名)が参加しました。

3月 チャイルド・ファンドパス・イット・バックイベント開催

アジアラグビーの主催により、東京都府中市で「チャイルド・ファンド パス・イット・バック・カップ Delivered by DHL」が開催されました。プログラムに参加するベトナムの子どもたちが来日し、日本の子どもたちと交流しました。

地域開発 支援事業

子どもの健全な成長と地域の自立を目指した包括的な支援を行う「スポンサーシップ・プログラム」、貧困に起因する様々な問題において特定の開発課題に応える「支援プロジェクト」を実施しています。



チャイルド・ファンド・ジャパンが取り組む6つの分野

教育	学用品の配布や学校設備の整備など、子どもたちが勉強を続けるための環境を整えます。	子どもの保護	「子どもの権利条約」に基づき、子どもの権利を守るための活動を行います。	保健・栄養	子どもたちが健全に成長できるよう、補食プログラムや健康診断などを行います。
家族の生活改善	子どもの親に職業訓練や収入向上プログラムを提供し、家族の生活改善を目指します。	自己啓発	積極的に生きる姿勢を育み、子どもたちの内面的な成長を支えます。	住民主体の組織づくり	地域が支援から自立することを目指し、住民組織を強化するプログラムを実施します。

Sponsorship Program スポンサーシップ・プログラム

スポンサーシップ・プログラムは、貧しさの中で暮らす子どもたちが健やかに成長できるように支援するプログラムです。支援を受ける子どもたち(チャイルド)には、教育や保健・栄養など一人ひとりの必要に応じたプログラムが提供されます。また、家族と地域の自立を目指し、家族の生活改善や住民主体の組織づくりなど、中・長期的な視野にたった支援を行います。

スポンサーシップ・プログラムが 目指す2つのゴール

GOAL 1 チャイルドの健全な成長

将来を担う子どもたちへの教育、健康に生活するために必要な保健・医療など、一人ひとりの必要に応じた支援をしています。

GOAL 2 地域の自立

チャイルドの家族や地域の人々へ、職業訓練や住民組織の立ち上げ、小規模事業資金の融資などを行っています。



Special Assistance Program

支援プロジェクトについて

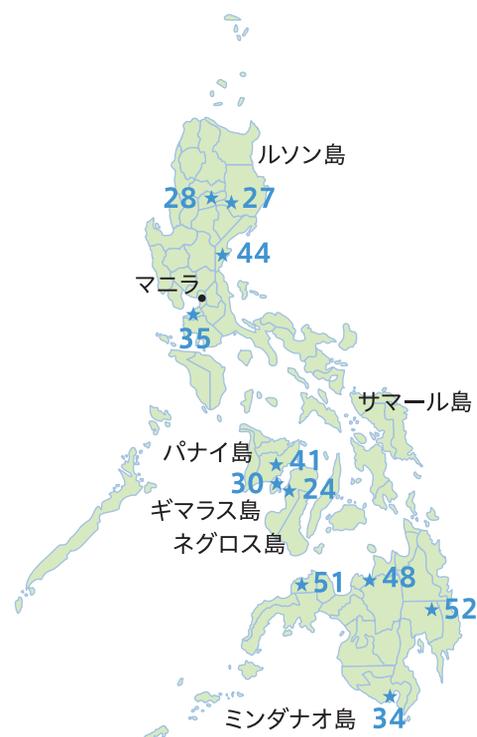
支援プロジェクトは、貧困に起因する様々な問題のうち特定の開発課題に応える事業です。学校環境整備、子どもの権利、児童労働、早期婚、保健、栄養、安全な水へのアクセス、収入向上、小規模ビジネス、協同組合事務所、少数民族など、その地域、環境において必要とされる課題に取り組んでいます。スポンサーシップ・プログラムと相互補完的に、子どもたちの健全な成長を支えています。

2018年度 スポンサーシップ・プログラム支援地域一覧

フィリピン

センター番号	事業地	チャイルド定員数*1	事業期間	協力パートナー
24	中部ビサヤ諸島 西ネグロス州	300名	2014.6~2019.5	The Congregation of the Augustinian Missionaries of the Philippines
27	北部ルソン イサベラ州	450名	2014.6~2019.5	Pamanang Panuluyan ng La Salette, Inc.
28	北部ルソン イフガオ州	160名	2017.6~2019.5	Saint Mary Magdalene Parish
30	中部ビサヤ諸島 ギマラス州	398名	2017.6~2019.5	チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所
34	南部ミンダナオ サラングニ州	444名	2014.6~2019.5	Notre Dame Business Resource Center Foundation, Inc. (NDBRCFI)
35	北部ルソン カピテ州	375名	2016.6~2020.5	Magdalena Human Development Foundation
41	中部ビサヤ諸島 イロイロ州	400名	2018.6~2023.5	Janiuay Calvario Community Center, Inc.
44	北部ルソン オーロラ州	400名	2014.6~2019.5	St. Francis Center - Integrated Arera Development for Aurora, Inc.
48	南部ミンダナオ 東ミサミス州	300名	2018.6~2023.5	チャイルド・ファンド・ジャパン フィリピン事務所
51	南部ミンダナオ 北サンボアンガ州	400名	2014.6~2019.5	Mindanao Resource Institute for Community Empowerment Inc. (MINRICE)
52	南部ミンダナオ ダバオ・デル・ノルテ州	150名	2016.6~2021.5	Davao Medical School Foundation, Institute of Primary Health Care

計 3,777名



ネパール

センター番号	事業地	チャイルド定員数*1	事業期間	協力パートナー
61	シンドゥバル チヨーク郡	579名	2016.4~2021.3	Tuki Association Sunkoshi

計 579名



スリランカ

センター番号	事業地	チャイルド支援数*2	事業期間	協力パートナー
4049	プッタラム県	155名	通年	VOICE Area Federation Puttalam
4231	ヌワラエリヤ県	147名	通年	T-Field Child Development Federation

計 302名



*1.チャイルド定員数には、スポンサーの紹介を待っているチャイルドの数も含まれています。
*2.数字は2019年3月31日時点。

PHILIPPINES

フィリピン



2018年度
支援チャイルド数

3,777

支援対象 フィリピンのすべての協力センターのチャイルド3,777名とその家族、地域住民約18,000名

事業費 137,251,000円

事業期間 5年毎の長期(毎年6月～5月)

報告期間 2018年4月1日～2019年3月31日

2018年度にフィリピンで実施したスポンサーシップ・プログラムと3つの支援プロジェクト、1つの緊急・復興支援事業についてご報告いたします。スポンサーシップ・プログラムではルソン島、ビサヤ諸島、ミンダナオ島にある11の協力センターと協働し、3,777名のチャイルドを支援しました。そのうち41%が小学校(1年生～6年生)、58%がジュニアハイスクール・シニアハイスクール(7年生～12年生)、1%が大学などの高等教育に通って勉強しました。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

とに加え、学年があがると、コンピューターを使うことが前提の課題や、材料を持ち合う工作のグループ作業などが増えてくるためです。協力センターでは、そうした子どもたちが抱える悩みをスタッフが理解し、一人ひとりに合った教育支援を行いました。

チャイルドへの支援

チャイルドたちが、勉強を続けられる環境を整えるための教育支援、健全に成長するための保健・栄養に関わる支援、そして積極的に生きる姿勢を育む自己啓発プログラムの実施などの支援を行いました。

学校に通い続けるための環境を整える教育支援

子どもたちが学校に通い続けられるよう、健全な心と身体づくり、家族や仲間と助け合う地域社会づくりを支援しました。特に思春期のチャイルドたちは、経済的な理由と時間のやりくりの難しさの2つの面から、学校を続けることが困難になる場合があります。家庭での責任が大きくなり、多くの家事を担うようになるこ



工作を通して子どもの権利を学びました

また、地域ごとの課題に沿ったテーマのセミナーを実施しました。テーマは、自己肯定感やリーダーシップなどの内面の成長に焦点をあてたものから、手洗いや歯磨きといった保健衛生に関するもの、さらに環境問題や防災など地域づくりに関わるものまで様々でした。ほかにも、子どもの権利を学ぶ活動を引き続き行いました。チャイルドたちはこれまでも子どもの権利についての知識を深めてきており、周りの人々に働きかけていく啓発活動も活発になってきています。

子どもの保護の推進

フィリピンでは、村ごとに、子どもの保護を推進する活動の企画

実施を担う「子どもの保護委員会（BCPC；Barangay Council for Protection of Children）」が設置されています。学校にも同様の委員会があり、協力センターでは、これらの機関との関係づくりを強化しています。チャイルドたちは、暴力を受けたり見聞きしたりした場合に、地域の中でこういった機関や人に通報・相談したらよいかを学んでいます。自分の権利とともに周りの子どもたちの権利も尊重し、いざという時には、助けを求められた村や学校の子どもの保護委員会が機能できるよう、地域の機関との連携強化を進めています。チャイルドたちを中心に構成される子ども組織の活動がBCPCに認められ、村の委員会が子どもの活動計画を策定する会議に招かれて意見を述べるという成果も見られました。

家族の生活改善

家族の生活を改善し、子どもたちが健全に成長できる環境を整えることもスポンサーシップ・プログラムの大きな目的の一つです。家族が子どもの権利について学び、季節労働だけに頼らない収入向上策など生活改善につながる知識を得ることができるよう、様々な活動を実施しました。

快適な生活環境を子どもたちに

2018年度は、環境整備活動（地域清掃、

ごみ処理、植林など）に多くの家族が参加しました。また、子どもの権利、子どもの守られる権利と村の子どもの保護委員会の役割について学ぶセミナーや体罰に頼らないしつけの方法を学ぶセミナーも多くの家族を対象に実施しました。

子どもと家族の栄養改善

毎年実施している、栄養不良の子どもたちを対象とした補食に加え、「いつも家に食べ物がある状態にする」ことを目指した、保健・栄養セミナーや家庭菜園・共同菜園の推進を行いました。これらの取り

組みを進めた結果、栄養不良の子どもをなくすという目標を達成した支援地域もありました。



地域の清掃活動を実践する家族

地域の自立のために

スポンサーシップ・プログラムでは、支援地域の自立を目指して、住民主体の組織づくりなど中・長期的視野にたった支援も行っています。

子どもを守る活動を引き継ぐ 住民組織

スポンサーシップ・プログラムを通じて

育成される住民主体の組織は、組合として活動するための基本的なスキルを学び、会費を管理し、米や家庭用品の共同購入・共同販売、貯蓄融資活動などを通じた家族の生計向上を担うようになります。センター24の住民組織では、行政が提供する職業訓練や組織運営の活動に会員や役員参加を促し、能力強化を進めました。また、地元行政の保健局に働きかけ、若者向けのシンポジウムの開催、そして銀行との共催により地域の子ども350人を対象とした給食イベントを実施しました。



町の保健局と連携して行った、
思春期の性とHIV/AIDSの啓発セミナー

子どもたちの声① ジョネラ(17歳)

かつての私は、「学校に通い続けることができるのか」「私の人生はどうになってしまうのか」と不安でいっぱいでした。スポンサーシッ

プ・プログラムのおかげで希望を持って8年間学校に通い続けることができた今の私は、常に前を向き、自分の権利と責任を語り、家族を愛し、私の周りの人たちや地域のことを考えることができます。これからどんな困難が待ち受けていても、私は乗り越えられると信じています！



Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

みんなで守る子どもの権利プロジェクト

協力パートナー	フィリピンのすべての協力センター
協力期間	2017年8月1日～2020年5月31日
支援対象	チャイルド3,777名と地域住民約20,000名
報告期間	2018年8月1日～2019年5月31日
支援規模	10,687,000円

背景と事業目的

子どもの保護を推進し、子どもの権利が守られる社会を目指して、2014年よりこのプロジェクトが始まりました。2018年度は「子ども会議」での研修と話し合いを受けて、若者たちの予期しない妊娠やHIV/AIDSを含む性感染症の危険を軽減するために、子どもたちが主体となって行う地域での啓発活動を支援しました。

活動概要と成果

「子ども会議」に参加した各センターのチャイルド計26名は、それぞれの地域で、性と生殖に関する健康と権利、子どもの権利、HIVや思春期の性について会議で得た学びを、地域の子どもたちに分かち合いました。また、各センターではチャイルドた

ちがそれぞれの工夫で啓発活動を計画・実施しました。南部ミンダナオのセンターでは、子どもたちがキャンペーンポスターを作成して、地域の学校や村の「子どもの保護委員会」に配布し、問題の解決に向けた取り組みを話し合いました。カガヤン州のセンターでは、地域の若者たちの性行動についての調査を実施し、今後の取り組みを考える基礎としました。先生や村の役員を招いて若者たちの妊娠を予防するための研修を行ったセンターもあり、参加者からは、若者の妊娠を防ぐうえで具体的な取り組み方法を学べたことに感謝の声が寄せられました。



村の「子どもの保護委員会」にポスターを配布しました

Special Assistance Program 2

支援プロジェクト 2

青少年を主体とした地域防災普及活動のリーダー養成研修事業

協力パートナー	フィリピンのすべての協力センター、Center for Disaster Preparedness(CDP)
協力期間	2018年5月1日～2018年10月31日
支援対象	チャイルド44名、協力センターのスタッフ11名、地域住民約150,000名
支援規模	5,601,000円（全国社会福祉協議会からの助成金により実施）

背景と事業目的

毎年のように台風被害を受けるフィリピンでは、地域の人々が中心となった防災体制づくりが大切です。この事業では、地域社会全体の防災意識向上と災害に強い地域社会づくりを目指し、子どもたちが主体となって地域の防災啓発活動に取り組んでいけるよう支援しました。

活動概要と成果

2018年5月に行った防災の基礎研修に、全国11カ所のセンターから44名の子どもたちとスタッフ11名が参加しました。また、絵画、演劇、歌などを活用した防災キャンペーンを行うための

研修も実施しました。

研修での学びをもとに、子どもたちはそれぞれの地域で防災キャンペーンを企画し実施しました。キャンペーンは、地元行政の防災部門担当者などが参加したシンポジウムの開催、バイクやジープニー（乗合タクシー）といった公共交通機関を使ったパレードの実施など様々で、子どもから大人まで多くの参加がありました。さらに、村内の河川に水位計を設置し、早期警報に使用するという子どもたちが発案した取り組みが、村役場の役割として引き継がれるなどの成果もありました。



研修でのポスターづくり

Special Assistance Program 3

支援プロジェクト 3

医療保健統合支援プロジェクト

協力パートナー	Magdalena Human Development Foundation
協力期間	2018年6月1日～2018年11月30日
支援対象	カピテ州シラン町11カ村に住む子どもたちと地域住民約67,000名
支援規模	1,347,000円(崎陽会ぼかぼか基金からの助成金により実施)

手洗いや歯磨きの励行をするためのセミナーを実施しました。蚊やネズミが媒介する感染症を減らすため、地域の人々を動員したドブさらいやゴミの収集などを行って、衛生的な環境の整備を促しました。

背景と事業目的

支援地域は首都マニラの南40kmほどに位置し、1993年ごろからマニラのスラム住民が強制的に移転させられてきた地区です。家屋が密集し、生活上の衛生環境が極めて悪い状況にあります。この地域での結核患者の発見と治療、公衆衛生環境の向上、子どもたちの歯科治療を目指して支援が行われました。

活動概要と成果

ツベルクリン検査、喀痰検査、レントゲン検査により発見された79名の重度の結核患者に対して、政府の治療のガイドラインに沿って投薬や補食の提供を行いました。その結果、すべての患者が完治し、対象地域での結核感染の危険がなくなりました。190名の子どもたちにフッ素を使った虫歯予防を行い、プロジェクトにより提供された歯科椅子を使って、大人を含む69名の虫歯患者が歯科治療を受けました。11カ所の保育所の298名の子どもたちには衛生キット(石けん、タオル、歯ブラシなど)を配布して、

- 1: 結核患者の治療
- 2: 子どもたちによる手洗いのデモンストラーション



Emergency Relief and Rehabilitation 1

緊急・復興支援事業 1

フィリピン台風26号への緊急支援

協力パートナー	Pamanang Panuluyan ng La Salette, Inc.
協力期間	2018年10月30日～2019年1月31日
支援対象	北部ルソンイサバラ州ラモン市の16世帯、約64名
報告期間	2018年10月30日～2019年1月31日
支援規模	363,000円

材を配布しました。また、そのうちの5世帯に、米や砂糖、食用油といった食料の配布を実施しました。

背景と事業目的

2018年10月30日に、台風26号(国際名Yutu; 現地名Rosita)がルソン島北部に上陸しました。人的被害はありませんでしたが、一部の世帯に家屋損壊の被害があり、緊急支援を実施しました。

活動概要と成果

スポンサーシップ・プログラムの支援を受ける69世帯の家屋に被害があり、自力での再建や修復が難しい16世帯に対し、建設資



建築資材を受け取った家族

NEPAL ネパール

2018年度
支援チャイルド数

579

支援対象 シンドウパルチョーク郡スソコシ町の公立学校8校のチャイルド579名、
その他生徒547名、教師79名、学校運営委員会(SMC)・PTA役員96名
事業費 24,260,000円
事業期間 2016年4月～2021年3月
報告期間 2018年4月1日～2019年3月31日

ネパールで実施するスポンサーシップ・プログラムでは、子どもたちに質の高い教育を提供し、学校全体の教育環境の改善を図っています。また、4件の支援プロジェクトを実施し、耐震性の高い校舎の建設や学校の防災体制の強化などを行い、災害発生時に子どもたちが守られる環境の整備も進めました。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

ネパールで公的な教育制度が始まったのは1951年ですが、半世紀を経た今も、教育の制度、学校の設備、先生の質などにおいて様々な不備を抱えています。また、女の子に対する教育を重視しない、カーストのために教育の機会から疎外されるなど、社会的な習慣が子どもたちの教育の機会を阻んでいます。さらにシンドウパルチョーク郡は、2015年のネパール大地震で最も大きな被害を受け、子どもたちの学ぶ学校や日々の生活も大きな影響を受けました。

こうしたなかで、すべての子どもたちによりよい教育環境を整備し、質の高い教育を提供できるように、学校運営の改善、先生への研修、PTAを含めた学校運営委員会の能力強化に向けた支援を行っています。

支援内容と成果

生徒の出席率

先生たちが子どもたちの学校への出席を把握することを支援し、親と学校が連携して子どもの就学を促進するように支援しています。地震後に一時落ち込んでいた生徒の出席率も、70% (2017年度) から77% (2018年度) に回復してきています。先生や親の協力、学用品の配布や分かりやすい授業の実施なども出席率の向上に貢献しています。



歌や踊りを取り入れた
楽しめる授業の風景

学用品の配布

自分たちの学用品を持つことで、子どもたちは家庭で宿題をしたり、休むことなく授業に出席する意欲を高めています。親と先生の間では、子どもの家庭での勉強の在り方について話し合うことで、子どもたちが授業についてこられるように働きかけています。



親たちとの話し合いを行う先生

教員の質の向上

教員への教授法研修を行い、教材開発支援、クラス運営の向上に努めました。教科書以外に独自の教材を開発して授業を行う先生の割合は39%（2015年）から62%（2019年）に増加しました。



先生の手づくりの教材

生徒の成績向上

補習授業の実施などにより、生徒の平均成績は、対象8校のうち6校で2018年の目標である70%を越えました。2015年と2018年度の8校の平均成績を比べると、1-5年生では62%から70%に、6-9年生では47%から57%に、それぞれ向上しました。これまで学年末に子どもたちへ成績表が配布されていなかった学校でも、成績表を作成し配布することで、子どもや親が、学校での子どもの勉強の成果を把握できるように支援しています。



補習授業の様子

学校運営委員会の能力強化

新憲法のもとでの全国的な地方自治体の行政機構改編に伴い、町のレベルに教育行政の責任が任されるようになりました。学校運営委員会は新たなメンバーに交代したこともあり、2018年度は限定的な活動となりましたが、学校運営計画の見直しなどを行いました。



学校運営計画づくりの話し合い

子どもたちの声② ラジェンドラ(11歳)

ラジェンドラは、カーストの差別により教育の機会に恵まれなかったパハリ族の子どもで

す。補習授業に参加したことで成績が向上しました。

「ぼくは、補習授業に出たからは、先生の質問に全部答えられるようになり、とてもうれしかったです。語彙も増えて読み方もよくなりました。次は書き方をもっと練習します。」



Special Assistance Program 1

支援プロジェクト 1

子どもを守るコミュニティ形成プロジェクト(第2期)

協力パートナー	TUKI(Tuki Association Sunkoshi) *子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO GMSP(Gramin Mahila Srijansil Pariwar) *女性や子ども、抑圧されたグループの権利の推進を目指す現地NGO
協力期間	2016年4月1日～2021年3月31日
支援対象	シンドゥパルチョーク郡4カ村の17校に通う生徒約1,526名と その保護者、教師119名、学校運営委員会(SMC)・PTA役員273名
報告期間	2018年4月1日～2019年3月31日
支援規模	32,624,000円

授法の教員研修などを継続して実施しました。子どもへの支援として、子どもクラブ*の活動支援、世界子どもの日のイベントの実施、貧困世帯の子どもの就学支援などに取り組みました。

その結果、17校の1-5年生の平均の成績は前年度比2%減の61%となったものの、出席率は86%に改善し、教育省の評価基準を満たす先生の割合も72%に増加しました。先生の質の向上、学校設備の改善が子どもの学力向上にもつながるよう、SMCとともに今後の対応を検討していきます。

* 子どもクラブ:ネパール教育省の規定による学校活動として実施されている。各学年から2名程度の代表が出て組織され、学校の状況に応じて、子どもたちが話し合っ活動を企画し、実施している。

背景と事業目的

このプロジェクトは、学校や地域の人々とともに、教育を中心に子どもが健全に成長できる環境を整えることを目指しています。「幼稚園から5年生までの学力と出席率の向上」「学校の施設改善」「先生の能力強化」「学校運営委員会の能力強化」を目標に活動しています。

活動概要と成果

学校への支援として、校舎の修復・再建、水設備とトイレの設置、学校運営委員会(SMC)やPTAの運営強化、学力評価や教

世界子どもの日の活動に参加する子どもたち



Special Assistance Program 2

支援プロジェクト 2

シンドゥパルチョーク郡での「教室改善と学校安全計画強化」プロジェクト

協力パートナー	TUKI(Tuki Association Sunkoshi) *子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO
協力期間	2017年11月1日～2018年10月31日
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校1校(バルシクシャ校)に通う生徒86名、教師5名、学校運営委員会(SMC)・PTA役員4名、地域住民4,373名
報告期間	2018年4月1日～2018年10月31日
支援規模	11,107,000円(チャイルド・ファンド・コリアからの助成金により実施)

で使用する備品の配布を行い、子どもたちが安心して、安全に授業を受けられる環境が整備されました。また、学校防災委員会が組織され、災害時の学校安全計画がつけられました。これにより、今後の災害に有効に対応する制度が整えられました。あわせて、生徒や先生への防災オリエンテーション、防災の現地訓練を実施しました。

背景と事業目的

2015年の地震以降、仮設教室で行われていた授業の教育環境を改善し、学校による防災能力を強化することを目指して支援を実施しました。

活動概要と成果

耐震性の高い校舎(1棟4教室)、トイレや水設備の建設、教室

建設された校舎



Special Assistance Program 3

支援プロジェクト 3

■ シンドゥパルチョーク郡での「子どもの安全と保護のための子どもにやさしい学校」能力強化プロジェクト

協力パートナー	GMSP(Gramin Mahila Srijansil Pariwar) *女性や子ども、抑圧されたグループの権利の推進を目指す現地NGO
協力期間	2018年4月1日～2019年9月30日
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校1校(マンガラマイ校)の生徒336名、教師16名、学校運営委員会(SMC)・PTA役員20名、地域住民2,761名
報告期間	2018年4月1日～2019年3月31日
支援規模	27,765,000円(チャイルド・ファンド・コリアからの助成金により実施)

SMC4名、生徒297名への防災研修を行いました。子どもたちが主体となって子どもの保護を実践する「子どもにやさしいアカウンタビリティ」の活動も実施し、生徒184名、先生15名、SMC12名が子どもの権利と保護について研修を受けました。そのほか、町の職員28名に「子どもの保護研修」を実施した結果、町による「子どもの保護のガイドライン」が策定され、2019年1月に町の議会で承認されました。

背景と事業目的

2015年の大地震で被害を受けた学校で、教育環境を改善し、学校の防災能力を強化することを目的として事業を実施しました。災害時および平時における子どもの保護の取り組みについても、学校の能力を強化できるよう支援しました。

活動概要と成果

8教室を備えた耐震性の高い校舎、トイレ、手洗い場の建設を進めました。また、学校防災委員会が組織され、先生16名、

防災訓練の様子



Special Assistance Program 4

支援プロジェクト 4

■ シンドゥパルチョーク郡における「被災学校の再建と防災強化」プロジェクト

協力パートナー	TUKI(Tuki Association Sunkoshi) *子どもや家庭の経済的・社会的な生活向上を目指す現地NGO
協力期間	2018年11月27日～2019年11月26日
支援対象	シンドゥパルチョーク郡の公立学校5校(うち学校再建は1校)生徒1,025名、教師50名、学校運営委員会(SMC)50名、地方自治体職員2名
報告期間	2018年4月1日～2019年3月31日
支援規模	10,423,000円(外務省NGO連携無償資金の助成と寄付金により実施)

86名が参加した学校防災研修では、災害に対する地域ごとの脆弱性、避難経路図、ハザードマップなど、学校防災計画を構成する各項目を作成しました。また、公益社団法人シャンティ国際ボランティア会の協力で防災紙芝居を活用した研修も行いました。緊急時における子どもの保護研修には、男女38名ずつ計76名が参加し、心理社会的支援手法を学んだほか、人身売買など混乱に乗じて発生するリスクと対策を話し合いました。

背景と事業目的

地震で被災した学校で、防災能力の強化、災害時および平時における子どもの保護についての能力強化などを目的に支援を行っています。

活動概要と成果

耐震性の高い校舎の建設および校舎敷地の整備を進めました。

災害によるリスクの軽減にどう取り組むか、真剣な議論が続きます



SRI LANKA

スリランカ

2018年度
支援チャイルド数

302

支援対象 プッタラム県、ヌワラエリア県の302名のチャイルドと家族、地域
事業費 14,822,000円
事業期間 5年毎の長期(毎年7月～6月)
報告期間 2018年4月1日～2019年3月31日

2018年度のスポンサーシップ・プログラムによる取り組みと成果をご報告します。スリランカでは、乳幼児期・学齢期・青少年期の子どものライフステージに応じて、栄養、教育・ライフスキル、職業訓練、防災をはじめとした活動を行っています。2018年度は、2県の対象地域の302名のチャイルドが日本のスポンサーの方からの支援を受けてプログラムに参加しました。

Sponsorship Program

スポンサーシップ・プログラム

養・保健などの実務的な内容だけでなく、保護者や地域との関わり方など幅広い分野を網羅しています。指針の内容と活用についての研修を進め、一つの事業地にある43の保育所のすべての保育士への研修が完了しました。

乳幼児期(0歳から5歳)

乳幼児期の子どもたちへの支援は、安全な環境を整備し健康な発達と成長を支えることが大きな目的です。健康を支える活動として行ったことの一つに地域間の保護者の経験の分かち合いがあります。子どもの体重測定、身近な食材を使った栄養のある食事づくりなど、地域ぐるみで栄養改善を行っている母親グループの取り組みを、栄養不良が深刻な地域の保護者が学びました。また、感染症予防策として学校や保育所での正しい手洗いの普及などの活動に発展した事例も紹介されました。さらに、地域保健事務所と協力して、乳幼児を持つ保護者を対象とした初めての栄養講習会を開催しました。

安全な環境を整備する取り組みでは、教育省と協働して作成した保育の指針の普及を進めました。この指針は、子どもの栄



異なる地域の保護者たちが栄養不良対策の経験を分かち合いました

学齢期(6歳から14歳)

学齢期の子どもが年齢に応じた学力を備え、自信を持って生きていく基盤づくりを支える活動を行うのが、この年代の子どもを対象とした活動です。親や学校、地域の教育局や警察をはじめとした関係機関と協働して、チャイルドたちの成長を支えています。

学齢期にありながら学校へ通っていない子どもや中退のリスクがある子どもへの支援を行いました。2018年度も、支援地域の一部で実態調査を行い、学校に通えない原因を分析しました。学校へ通えない原因は複数の要因が絡み合っていますが、関係



授業に集中する子どもたち

機関と連携して子どもの状況に合う支援を決定します。自分の名前を書くこともできなかった14歳の子どもは、チャイルド・ファンドのボランティアから基本的な識字を学ぶことを始めました。経済的な困窮から学校に通えなかった子どもの家族には生計支援を開始しました。

また、子どもにやさしい教授法の普及にも取り組みました。児童心理、教材の準備、動画や読み物を活用した生徒との対話型教授法などを含む教員研修を、地区教育事務所と協力して進めることができました。研修の実施後には、35校の148名の教師が実際に授業を行っている様子を見て、研修で学んだことが実践されているかを確認するなど、継続的なサポートを行いました。



教員研修に熱心に参加する教師たち

青少年期(15歳から24歳)

若者が、自分自身を守る知識とスキルを身につける前に、よりよい生活を求めて村を離れ、危険な環境に身を置くことになってしまう状況は、引き続き地域の課題です。青少年期の若者を対象とした活動では、職業意識を育み、必要なスキルを身につけ、そして社会の一員として社会活動に関わっていただけるよう支援しました。キャリアガイダンスや職業訓練、リスク行動防止のための研

修は、学校で行ったほか、学校に通っていない、または学校を卒業して仕事に就いていない若者を対象に、コミュニティの中でも実施しました。また、地元行政と協働して環境・防災に関する研修を行いました。

これらの研修を通してできたいくつかの若者のグループでは、村の祭りの企画や準備、実施に協力したり、子どもの権利、環境保護、障がいのある人の権利についての理解を広げるキャンペーンを実施したりするなど、地域活動への積極的な参加が見られました。



環境保護のキャンペーンを実施した若者グループ



自信を持って自分の意見を発表する若者

広報・啓発・ 提言事業

チャイルド・ファンド・ジャパンは「すべての子どもに開かれた未来を約束する国際社会の形成」というビジョンの実現のため、広報・啓発・提言事業を重要な活動と位置付けています。一人ひとりの子どもの権利が尊重され、守られるよう、団体や活動に関する情報を広く発信します。また、チャイルド・ファンド・アライアンスと協働して、世界各国の政府、国連機関へのアドボカシー（政策提言）の活動も強化しています。



■ 持続可能な開発目標(SDGs)の 達成に向けたアドボカシー活動

「子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ(GPeVAC)日本フォーラム」のメンバーとして、日本政府が持続可能な開発目標(SDGs)の目標16.2の達成に向けて作成する「国家行動計画(National Action Plan)」骨子案づくりに向けた提言活動を行いました。

ほかにも、2018年9月に韓国のNGOが主催した「SDGsのための日韓市民フォーラム」に参加し、分科会では「子どもの暴力撤廃」について韓国のNGOと取り組みを話し合いました。また、翌日行われた韓国外務省による「第12回ソウルODA国際会議」にも招かれ、日本のNGOとして意見表明に参加しました。



日本のNGOとSDGsについて意見交換

■ 子どものセーフガーディングの取り組み

いじめや暴力、虐待から子どもたちを守る体制をより一層強化するため、「子どものセーフガーディング方針」と「子どものセーフガーディングの行動規範」を制定し、2018年11月20日の「世界子どもの日」に合わせ、その内容をウェブサイトに掲載しました。子どもたちにあらゆる形態の危害を与えないことを確実にするため、チャイルド・ファンド・ジャパンの組織に関わる人々、組織運営、事業が負うべき責任を明確に記載しています。

チャイルド・ファンド・ジャパンの役員と職員は「子どものセーフガーディング方針」と「子どものセーフガーディングの行動規範」を理解し、遵守することを約束し、誓約書へ署名をしました。また、東京事務所内に「子どものセーフガーディング委員会」を設置

し、各活動の中に子どものセーフガーディングを反映する動きをつくり始めました。

フィリピン事務所、ネパール事務所でも、子どもへの暴力の予防・対応・通報の手続きの見直しなどを行い、子どもに危害をもたらさないために組織として準備することを確認し合いました。また、ご支援いただいている企業や学校に、「子どものセーフガーディング」を説明し、チャイルド・ファンド・ジャパンの取り組みについて理解していただく機会をつくりました。

「子どものセーフガーディング方針」と「子どものセーフガーディングの行動規範」の内容については、ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.childfund.or.jp/blog/181119csgp>



■ メディアへの掲載

書き損じハガキや未使用切手の寄付による支援について、読売新聞と2つのオンラインメディアへの掲載がありました。また、「杉並区民の手でネパールに学校を！」キャンペーンへの協力を呼び

かける記事が、杉並区報のほか、1つのオンラインメディアに掲載されました。

2018年度に活動報告を行った学校や教会など

ご支援、ご協力くださる学校や教会の皆さまに活動の成果をご報告しています。

- ・ 青山学院高等部
- ・ 青山学院初等部
- ・ 青山学院幼稚園
- ・ アサンプション国際中学校・高等学校
- ・ 和泉短期大学
- ・ 一宮友の会
- ・ カトリック大森教会
- ・ 恵泉女学園中学校・高等学校
- ・ 札幌聖心女子学院高等学校
- ・ 頌栄女子学院中学校・高等学校
- ・ 生活協同組合パルシステム埼玉
- ・ 清心中学校・清心女子高等学校
- ・ 聖望学園中学校
- ・ 玉島カトリック教会
- ・ とわの森三愛高等学校
- ・ 日本キリスト教会仙台黒松教会
- ・ 日本基督教団芦屋西教会
- ・ 日本基督教団日立教会
- ・ 日本基督教団藤沢北教会
- ・ 日本基督教団溝ノ口教会
- ・ 日本基督教団大和キリスト教会
- ・ ノートルダム清心中学校・高等学校
- ・ バット博士記念ホーム
- ・ 福山暁の星小学校
- ・ 福山暁の星女子中学校・高等学校
- ・ 福山暁の星幼稚園
- ・ 株式会社ぶどうの木(認可保育園)
- ・ 普連土学園中学校・高等学校
- ・ 北星学園大学
- ・ 北陸学院中学校・高等学校
- ・ 明治学院中学校・東村山高等学校
- ・ 横浜愛隣幼稚園
- ・ 立教女学院小学校
- ・ ルーテル学院大学

(50音順)

NGO・政府機関との連携・協働

より効果的な支援活動を行うため、チャイルド・ファンド・ジャパンは他のNGOや関係機関と協力しています。

- ・ GII/IDI懇談会
- ・ JANIC(国際協力NGOセンター)
- ・ JCC-DRR(防災・減災日本CSOネットワーク)
- ・ JNNE(教育協力NGOネットワーク)
- ・ SDGs 市民社会ネットワーク
- ・ なんとかしなきゃ!プロジェクト
- ・ 子どもに対する暴力撤廃のためのグローバル・パートナーシップ(GPeVAC)日本フォーラム

ネパールで初めての訪問の旅を実施しました!

2018年10月に、「ネパール訪問の旅2018～チャイルドに会いに行こう～」を実施しました。20名の支援者の方が参加し、シンドゥパルチョーク郡の支援地域やネパール事務所を訪れました。支援地域の学校では、支援を受ける子ども(チャイルド)たちと折り紙や歌などで交流しました。ネパールで訪問の旅を実施するのは今回が初めてでしたが、無事に終えることができました。

参加した支援者の方からは、「支援地域やチャイルドの様子を見て、本当の人生の豊かさや生きる喜びについて考えさせられた」といった感想のほか、「自分以外の支援者とも知り合えてよかった」という声も多く寄せられました。

また、日本の支援者の方々に実際に会ったことで、チャイルドたちの表情が明るくなったり、自分の気持ちをきちんと伝えられるようになるなど、よい変化が表れました。現地のスタッフにとっても、支援者の方々の想いに触れたことは大きな励

みとなったようです。今回の訪問の旅は、支援者、チャイルドたち、スタッフがつながることのできた機会となりました。



訪問した学校で、子どもたちと記念写真

様々なご支援・ご参加方法

スポンサーシップ・プログラムへの支援

職場全体で、支店で、部署でチャイルドの成長を見守っていただいています。



寄付つき自動販売機の設置で支援

自動販売機でお茶やジュースなどの商品をご購入いただくと、一定額が寄付されます。



チャリティーコンサートを通して支援



イベントを支援

イベント「タグラグビー×ライフスキル～生きる力を身につける～」の開催をご支援いただきました。



タグラグビーを体験する子どもたち

ボランティア活動で支援

65名のボランティアの皆さまに、ハガキと切手の仕分けや集計、翻訳や発送作業、イベントでのお手伝いをサポートいただきました。翻訳作業は在宅でもご協力いただいています。

遺贈・相続財産を寄付

ご自身の遺産やご家族からの相続財産を、「教育」という形で未来を担う子どもたちに贈ることができます。どうぞ事務局(03-3399-8123)までご相談ください。

寄付つきアイテムの販売で支援

株式会社フェリシモのファッションブランド「haco!(ハコ)」による「ラブアンドピースプロジェクト2018」が寄付つきアイテムの販売を通してネパールの子どもたちへの学用品配布などをご支援くださいました。



学用品の入ったリュックサックを嬉しそうに持つ子どもたち

関係者みんなで支援

病院内で募った寄付を通してフィリピンの医療保険統合支援プロジェクトへご支援いただきました。



支援により提供された歯科医療用のイス

ポイント寄付で支援

ポイントの寄付を通して、フィリピン台風26号緊急・復興支援事業へご支援いただきました。



その他のご支援

社員の方の寄付額と同額程度が会社からも寄付されるマッチングギフト制度、社員の方からのご推薦や社内基金を通してご支援いただいています。

キューピーグループ マatchingギフト 「QPeace」



OKI愛の100円募金



身近にあるもので支援

・ハガキ/切手を寄付

全国の皆さまより総額6,166,347円分のハガキや切手をご寄付いただきました。

・古本を寄付

古本を活用してNPO・NGOをサポートする「チャリボン」を通して268,551円ご寄付いただきました。

チャイルド・ファンド・アライアンス

チャイルド・ファンド・アライアンスは、子どもへの支援に取り組む11の団体からなる国際的なネットワークです。子どもたちが本来備え持つ可能性を実現できるよう、貧困やその原因となっている環境を改善するために、60ヵ国以上で1,200万人以上の子どもたち、家族とともに活動しています。チャイルド・ファンド・ジャパンは2005年4月にチャイルド・ファンド・アライアンスに加盟しました。



子どもへの暴力のない世界の実現に向けた取り組み

チャイルド・ファンド・アライアンスでは、1) グローバルなアドボカシーを展開すること、2) 緊急支援における子どもの保護と防災（災害リスク軽減）を強化すること、3) メンバー国を拡大することを5ヵ年戦略で進めています。近年は子どもへの暴力が世界中で深刻になっているため、ほかの複数の国際NGOとの連携をより一層強めて、暴力の撤廃に力を注いでいます。

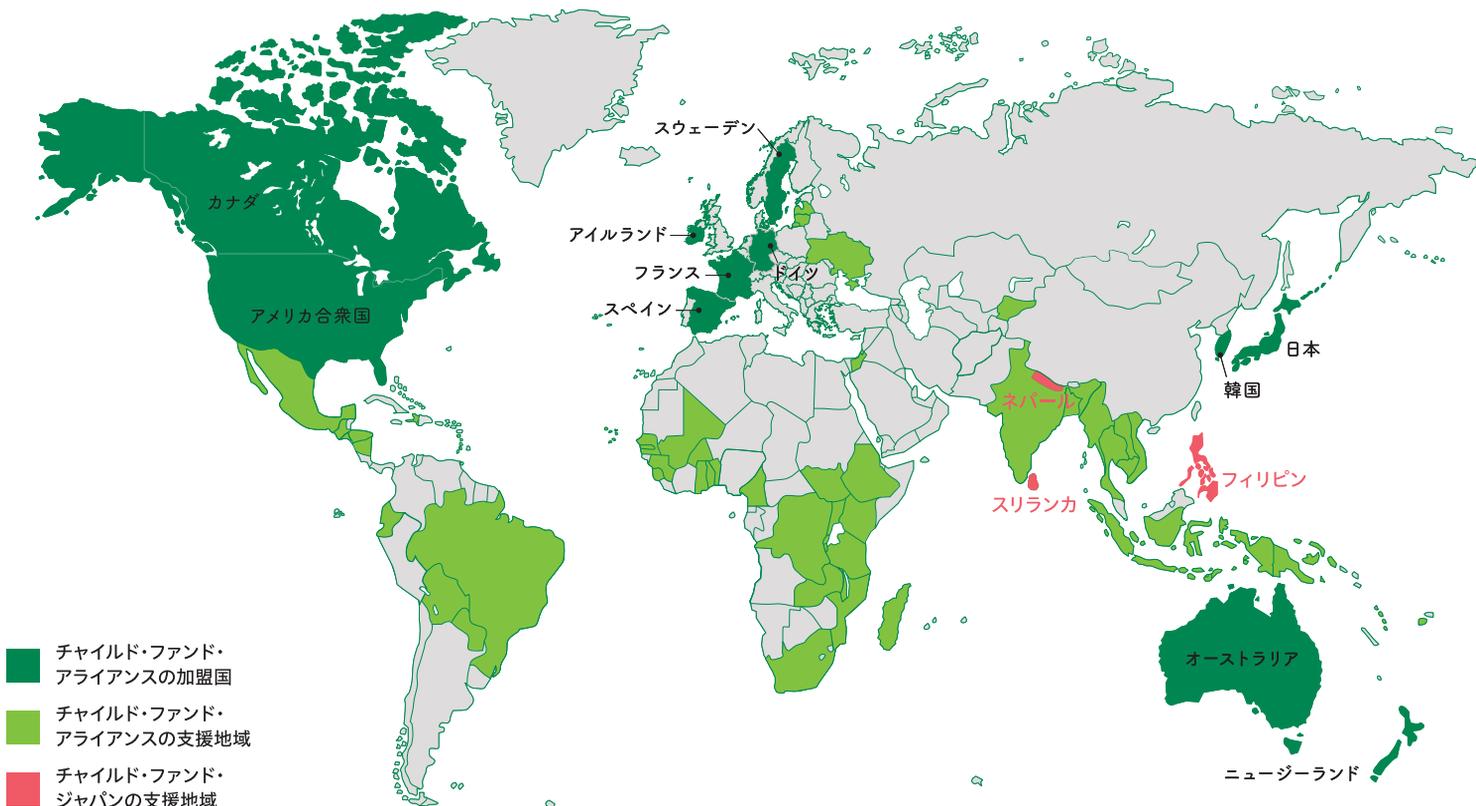
1) 持続可能な開発目標（SDGs）の目標16に「子どもに対する虐待、搾取、人身売買およびあらゆる形態の暴力および拷問を撲滅する」というターゲット（16.2）があり、この課題を中心に国連や欧州連合（EU）の場や各国でアドボカシー活動を行っています。また、子どもへの暴力撤廃について、子どもたちが主体的に理解していく「子どもにやさしいアカウンタビリティ」プロジェクトの検証を

パラグアイ、ウガンダなどの支援地域や韓国などのメンバー国で始めました。

2) ミャンマーからバングラデシュへのロヒンギャ難民など大規模な人道危機では、子どもの保護は大きな課題です。アライアンスはこの分野で専門性の高い国際NGOとの連携を強化して、緊急支援時において子どもの権利を確実に守る対応をしています。

3) アライアンスの利点はそのグローバルで柔軟なネットワークです。将来的にアライアンスに加盟してくれる候補団体を探して、絞り込み、交渉を続けています。

さらに、チャイルド・ファンド・アライアンスは、日本で開催されるラグビーワールドカップ2019に向けて、ワールドラグビーの公認チャリティパートナーに選ばれました。このような大規模な国際大会との協働を通し、アライアンス・メンバー国とも連携して、すべての子どもに開かれた未来をつくる国際社会を目指しています。



数字で見るチャイルド・ファンド・ジャパンの1年

スポンサー、マンスリー・サポーター、プロジェクト・サポーター、ハガキ協力者、古本寄付協力者としてご支援くださる皆さまと、フィリピン、ネパール、スリランカのチャイルドの数、支援を離れたチャイルドの数、決算報告の数字をまとめました。

※数字はいずれも2019年3月31日時点

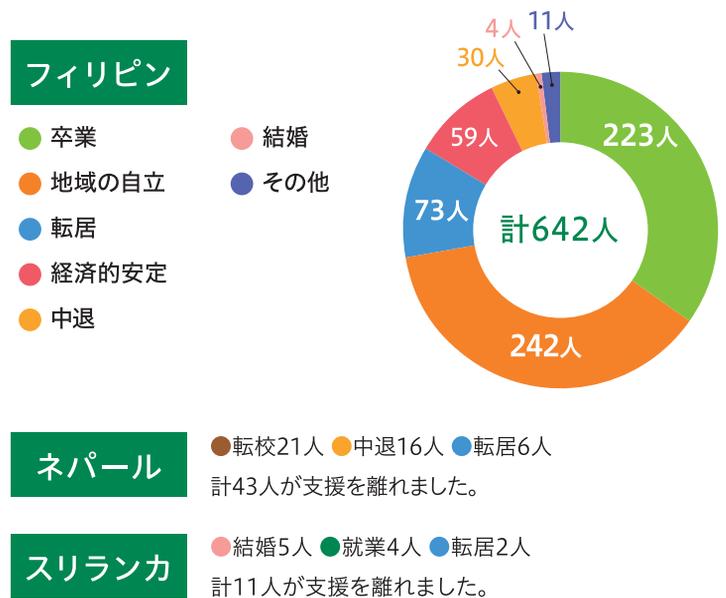
支援者数と支援チャイルド数



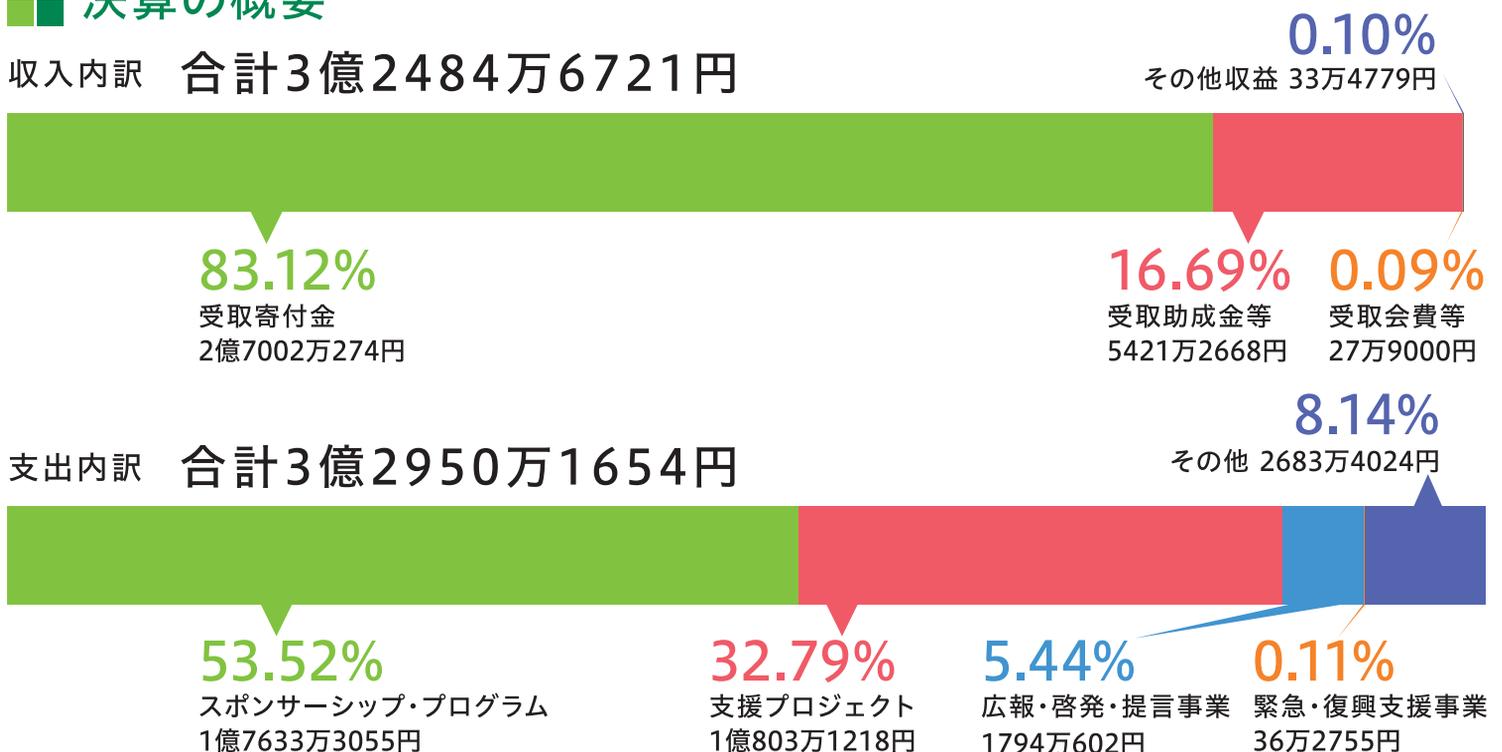
※複数ご支援くださっている方はそれぞれの支援方法でもカウントしています。



チャイルド・ファンド・ジャパンの支援を離れたチャイルド(2018年度)



決算の概要



2018年度会計報告

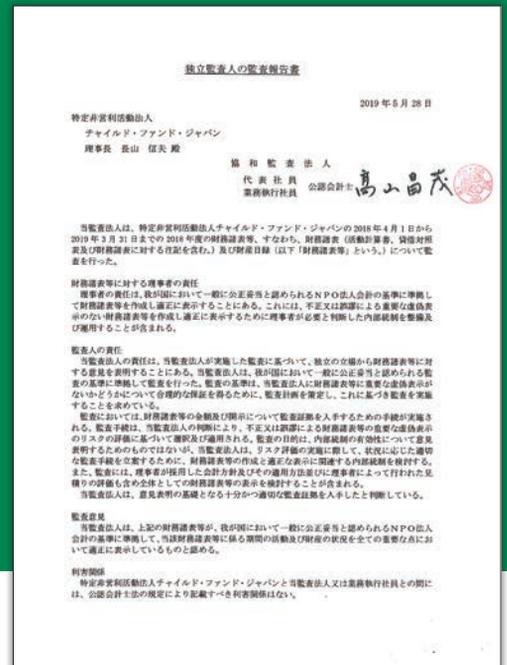
チャイルド・ファンド・ジャパンの会計監査について

チャイルド・ファンド・ジャパンでは、監事による内部監査の実施とともに、監査法人による外部監査を受けています。ここに記載された会計報告は、財務諸表から抜粋したものです。詳細はウェブサイトでご覧いただくことができます。

<https://www.childfund.or.jp/about/>

監査報告書

協和監査法人から提出された監査報告書です。



活動計算書

2018年4月1日から2019年3月31日まで

科目	金額(単位:円)
<一般正味財産増減の部>	
I 経常収益	
1 受取会費等	279,000
2 受取寄附金	270,020,274
3 受取助成金等	54,212,668
4 その他収益	334,779
経常収益計	324,846,721
II 経常費用	
1 事業費	
(1)人件費	84,378,114
(2)その他経費	
フィリピン支援事業費	113,372,757
ネパール支援事業費	43,949,768
スリランカ支援事業費	11,395,200
その他支援事業費	49,571,791
事業費計	302,667,630
2 管理費	
(1)人件費	15,770,160
(2)その他経費	11,063,864
管理費計	26,834,024
経常費用計	329,501,654
当期一般正味財産増減額	-4,654,933
為替換算調整額	27,816
<指定正味財産増減の部>	
受取助成金等	83,429,359
一般正味財産への振替額	-50,825,638
当期指定正味財産増減額	32,603,721
次期繰越指定正味財産額	43,710,702

貸借対照表

2019年 3月31日現在

科目	金額(単位:円)
I 資産の部	
1 流動資産	
現金預金	135,935,371
貯蔵品	226,128
前払費用	290,227
未収金	7,180,655
その他流動資産	1,711,974
流動資産合計	145,344,355
2 固定資産	
(1)有形固定資産	122,447,249
(2)無形固定資産	1,425,600
(3)投資その他の資産	339,693,071
固定資産合計	463,565,920
資産合計	608,910,275
II 負債の部	
1 流動負債	
未払金	9,102,625
預り金	2,478,597
賞与引当金	3,760,438
流動負債合計	15,341,660
2 固定負債	
退職給付引当金	5,438,605
固定負債合計	5,438,605
負債合計	20,780,265
III 正味財産の部	
1 指定正味財産	
前期繰越正味財産	11,106,981
為替換算調整額	0
当期正味財産増減額	32,603,721
指定正味財産合計	43,710,702
2 一般正味財産	
前期繰越正味財産	549,046,425
為替換算調整額	27,816
当期正味財産増減額	-4,654,933
一般正味財産合計	544,419,308
正味財産合計	588,130,010
負債及び正味財産合計	608,910,275

2018年度年次報告書

チャイルド・ファンド・ジャパンは、1975年より、アジアを中心に貧困の中で暮らす子どもの健やかな成長、家族と地域の自立を目指した活動をしています。



Vision Mission

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ここに掲げるビジョン(目標)、ミッション(使命)に基づいて活動します。

ビジョン 【目標】

すべての子どもに開かれた未来を約束する
国際社会の形成

愛のバトンタッチ

チャイルド・ファンド・ジャパンは、第二次世界大戦後、海外からの支援を通して、日本の戦災孤児の成長を守ることから活動を始めました。時代が変り、支援の受け手から担い手へと立場が変わっても、そこに一人ひとりの子どもが希望を持って生きることのできる社会を目指す姿勢は変わりません。

ミッション 【使命】

生かし生かされる国際協力を通じて
子どもの権利を守る

子どもの笑顔のために

チャイルド・ファンド・ジャパンは、ビジョンを達成するために、支援を通じてつながるすべての人々が、様々な違いを超えて、お互いが人生に意味を見出し、「生きていてよかった」と思える国際協力を実践することを通して、子どもの権利を最優先に位置づけた活動を展開します。

特定非営利活動法人チャイルド・ファンド・ジャパン

顧問 深町 正信
理事長 長山 信夫
事務局長 武田 勝彦
所在地 〒167-0041 東京都杉並区善福寺2-17-5
TEL 03-3399-8123
FAX 03-3399-0730
E-mail childfund@childfund.or.jp
URL <https://www.childfund.or.jp/>

郵便振替口座 00170-8-196462
加入者名 特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン
銀行振込口座 三井住友銀行西荻窪支店
普通預金口座 0920355
口座名 特定非営利活動法人
チャイルド・ファンド・ジャパン



特定非営利活動法人国際協力NGOセンター(JANIC)の「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークです。JANICのアカウンタビリティ基準の4分野(組織運営・事業実施・会計・情報公開)について、当団体が適切に自己審査したことを示しています。チャイルド・ファンド・ジャパンは、社会的責任を果たし皆さまからの信頼に応えるため、「アカウンタビリティ・セルフチェック2012」マークを取得しました。

